

伊形地区まちづくり懇談会（概要）

日 時	平成22年8月12日（木）19時00分～20時42分
会 場	一ヶ岡コミュニティセンター
参 加 者	68人
内 容	<p>1 伊形地区区長会会長から地区の課題等について説明・提言</p> <p>【三津会長】 伊形地区は、団地の建設から急速に発展した地区で、人口は隣の門川町と同規模だ。高齢化率の進行も著しく、65歳以上が40%を超えている。このような高齢社会の視点から3つの提言をしたい。</p> <p>【1点目】 現在の一ヶ岡コミュニティセンターは、学校施設を活用したもので、使用する際、規制があり堅苦しい。また、土足で上がれない。高齢者のふれあいの場として、もっと自由に、のびのび使えるコミュニティセンターを、土々呂地域と伊形・一ヶ岡地域に一ヶ所ずつ設置してほしい。</p> <p>【2点目】 伊形地区は広い。たとえば、車の運転免許を持っていない高齢者が土々呂にある伊形支所に出ていくのはたいへんだ。住民票や印鑑証明など簡単な請求ができる支所機能を持った施設を伊形支所以外に設置してほしい。</p> <p>【3点目】 一ヶ岡交番隣接地の有効活用について尋ねる。現在、一ヶ岡交番隣接地は、隣接するAコープの職員駐車場として使用され、市に使用料歳入があると聞く。遊んでいる土地というわけではないが、有効活用という観点からすると、伊形地区住民からすると疑問がある。今すぐどうしてほしいという提言ではないが、長期的展望に立って、有効活用を考えてほしい。</p> <p>《市長》</p> <p>【1点目】 コミュニティセンターは、ある程度広いエリアの人の利用を想定して設置しており、地域住民の身近な施設としての自治公民館とは設置目的が違っている。三津会長の提言される内容の施設となると、コミュニティセンターの目的や位置づけと変わってくる。また、市全体としてのコミュニティセンター設置計画については、地区社会福祉協議会のエリアごとに設置する方向で整備中であり、この一ヶ岡コミュニティセンターは平成7年に第1号として開館している。まだ整備していないエリアが半分くらい残っているので、まず、整備ができていないエリアから整備を進めていきたい。また、一ヶ岡コミュニティセンターが運用面で使いにくい面があれば検討していきたい。</p> <p>【2点目】 合併で、本市は九州で2番目に広い面積の自治体となって、この広い地域の住民サービスアップに、行革を実施しながら努めないといけない。簡単な証明書が発行できるような支所機能を有するアイデアとしては、コンビニの活用があると考えている。自動交付機を設置している自治体もあるようだが、利用率は高くないようだ。</p>

<p>内 容</p>	<p>【3点目】 一ヶ岡交番隣接地の有効活用についての提言だが、このほかの市内にある跡地の活用についても、さまざまな意見を寄せられ参考にしている。たとえば、高千穂線跡地については今年度中に跡地利用の計画を策定する。一ヶ岡交番隣接地の具体的な活用計画は今のところないが、今後、意見があれば出してほしい。</p> <p>2 意見交換</p> <p>【意見】 3点意見を述べたい。</p> <p>(1点目) 私は、21年6月から、一ヶ岡コミュニティセンターの管理運営委員長をしているが、21年度の利用状況は、設置目的にそった施設活用がなされ、自主講座利用が19講座、延べ9,828名が利用するという活況を呈している。三津会長から、ふれあいの場として、もっと自由に使えるコミュニティセンターの設置を要望する提言があったが、私は、講座で使用している地区住民以外の人にも、市がチラシ等を作成・配布し、施設目的の周知徹底と利用呼びかけをすべきだと考えている。</p> <p>(2点目) 一ヶ岡コミュニティセンターは玄関入り口と管理事務室が狭い。広く使いやすくしてほしい。</p> <p>(3点目) 最近、市職員の対応やマナーが良くなっている。市役所に行っても、気持ちが良い。この機会に、特に評価しておきたい。</p> <p>《市長》</p> <p>(1点目) コミュニティセンターの設置目的の周知徹底・利用の呼びかけは、広報事業の中で検討していきたい。コミュニティセンターを活性化させるために、設置目的にそった中で、各地域の創意工夫も活かせるといいと思う。</p> <p>(2点目) エアコン設置など順次整備している。玄関入り口や管理事務室の整備については、すぐにとはいかないと思うが検討していきたい。</p> <p>(3点目) 市職員の対応やマナーが良くなっていると褒めいただいた。そう言っていただけで、私もたいへんうれしい。これからも、職員一丸となって「天下一マナー運動」を推進していきたい。</p> <p>【意見】 年金支給日の変更についてお願いしたい。現在、年金は偶数月の15日に振り込まれているが、年金だけを頼りに生活している高齢者にとって、お盆や正月は、お金が特にかかる時期だ。この時期は、年金支給日を繰り上げるよう配慮できないか。</p> <p>《市長》 年金制度は国の制度だから、市が支給のシステムを変えることはできない。詳しくは、担当課から連絡させることにしたい。</p>
------------	--

<p>内 容</p>	<p>⇒ 《※まちづくり懇談会翌日、質問者には市民課年金係から「年金制度は国の制度として行われており、支給日については変更できない」旨を電話連絡し、了解していただいた。》</p> <p>【意見】 延岡を全国にPRするのに、お金のかからない方法はないかと考えている。たとえば、選挙の投票率アップに努めて「投票率日本一のまち」にしてはどうか。</p> <p>《市長》</p> <p>趣旨には同感だ。住民の声が政治に反映されるためには、投票率アップが重要だ。アメリカのように、マスコミが公開討論会などを開催するようにし、候補者の考え方が有権者にわかるようにすると、政治に対する住民の関心も高まって、投票率も上がってくると思う。</p> <p>また、投票率とは直接関係ないが、7月11日に行われた参議院議員選挙で、延岡市での開票事務の速さは県内でトップだった。選挙にも費用がかかるので、開票事務の速さも経費節減につながる。</p> <p>【意見】</p> <p>地区内の交通安全について提言したい。櫛津地区には支援学校など3つの教育施設があり、ハンディキャップを持った人が生活している。そのような中で、地区内の道路を車がスピードを出して通過し、歩行者や近隣住民にとってもたいへん危険である。県公安委員会の担当分野になるのかとは思いますが、市からも速度規制の看板設置を要望してほしい。緊急にやってほしい。</p> <p>《市長》</p> <p>地元から、運転者に対し看板設置等で速度規制の注意喚起を呼びかけてほしいと要望が出ていると県公安委員会に伝えたい。また、市内でも、交通安全の面から運転者の速度規制の注意喚起の方法について検討したい。</p> <p>【意見】 延岡市はアスリートタウンを市の施策の1つに掲げている。そうであるならば、運動施設の整備にも取り組んでほしい。たとえば、一ヶ岡中央公園内の野球グラウンドは地面がデコボコしていて、整備してほしい。今後の整備計画について教えてほしい。</p> <p>《市長》</p> <p>一ヶ岡中央公園内の野球グラウンドの整備計画については、後日、担当課から連絡させることとしたい。</p> <p>⇒ 《※質問者からの要望については、まちづくり懇談会翌日、都市計画課に伝え、検討を依頼した。》</p> <p>【意見】</p> <p>この一ヶ岡コミュニティセンター周辺一ヶ岡小学校正門通りの歩道は暗くて、特に、夜間、小学生、中学生、高校生の部活動の帰路など、防犯上たいへん心配</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>している。また、一ヶ岡小の体育館は、水害時の避難所になっていて、夜間、避難する場合、暗くて移動が危険だ。歩道照明施設の増設について検討してほしい。また、既設の照明の遮光を改善するため、枝の剪定も実施してほしい。</p> <p>防犯灯の設置となると、区の役割分野になるが、区のエリアから外れてしまう場所は、どこの区がお金を出して設置するのか協議もしないまま、設置しないままになってしまうことが多い。そのような箇所の場合には、市が間に入って調整してほしい。</p> <p>《市長》</p> <p>街路灯・防犯灯設置や市道の草刈りについては、伊形地区に限らず市内各地で要望が多い。防犯灯の設置は区の役割に含まれているが、区のエリアから外れてしまう場所の設置をどうするかが問題になってくる。市としては、ケースバイケースで判断している。合併後、九州で2番目に広い行政区になった本市は、市道の総延長距離が1,400kmとなった。このような状況の中、全部の地域で万全の整備をすることは困難であると考えているが、できる限り努力したい。街灯の件については庁内で協議したい。</p> <p>【意見】</p> <p>私が暮らす北一ヶ岡のむつみ区は58世帯で、65歳以上の高齢化率が31.7%だ。このうち、女性の高齢者ひとり暮らしが10世帯で、年齢的には74歳から90歳だ。私も福祉推進チームとしても、何とか地域の連絡を良くして、安心・安全な暮らしに努めている。今朝のテレビでも、神奈川県大和市の例が放送されていたが、高齢者ひとり暮らしの方が冷蔵庫の中に、持病、血液型などの医療情報を入れた缶を保管し、緊急時や災害時に役立てるというものであった。こういう取り組みを延岡でも広めていけたらいいと思う。</p> <p>《市長》</p> <p>少子高齢化は全国共通の問題で避けて通れない。少子高齢化社会にあつてのまちづくり、コミュニティづくりについてのひとつのアイデアだと思う。地域のコミュニティづくりに常に関心を持たれ、福祉推進チームを支える一員として安心・安全な暮らしに努めておられる姿勢に共鳴する。</p> <p>《補足説明》</p> <p>提案のあった取り組みは、冷蔵庫を活用し、地震などの災害時の救助に役立てようという『命のバトン』という取り組みだ。特に、ひとり暮らしの高齢者が、自分の写真や血液型、持病、常備薬など緊急の際の情報を、フレームが丈夫で、地震など災害時にも壊れにくい冷蔵庫の中に保管しておこうというものである。</p> <p>【意見】</p> <p>私が暮らす赤水地区は、70歳以上が男性36名、女性77名もいる。まさに高齢地域で、伊形地区の中でも不便な地域にある。高齢者は、遠く離れた病院通いにも車がなくて困っている。赤水、鯛名、妙見地区でコミュニティバスを運行する構想はないか？ また、宮交バスに依頼して、停留所以外でも停めてもらえるよう</p>
------------	---

<p>内 容</p>	<p>な配慮はしてもらえないか？</p> <p>《市長》</p> <p>公共交通としてコミュニティバスを運行するには、多大な経費がかかる。たとえ運行開始したとしても、その後の利用状況や維持運営にも、地域の人々の協力が必要だ。宮交バスが全く走っていない公共交通空白地域（安井・神戸地区、須佐・鹿小路―川島、小川―平田）に乗合タクシーを運行させているが、運行開始後の乗車状況は、そんなに多くはない。高齢社会での公共交通空白地域の移動手段の確保は、今後の大きな課題だ。どんなことができるか、市としても真剣に取り組みたい。宮交バスの停留所以外での停車の要望については、参考意見として伺いたい。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
------------	--